

## 平成 29 年度 事 業 報 告

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

## 1. 会 員 状 況

会員種別	平成 29 年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数 (A)	2018. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	20	19	△1	20	△1
終身会員	168	161	△7	157	4
正 会 員	3,004	2,950	△54	2,996	△46
学生会員	826	857	31	830	27
(合計)	4,018	3,987	△31	4,003	△16
賛助会員	213 社 (296 口)	211 社 (289 口)	△2 社 (△7 口)	211 社 (294 口)	0 社 (△5 口)
特殊会員	80 社 (106 口)	76 社 (102 口)	△4 社 (△4 口)	80 社 (106 口)	△4 社 (△4 口)

## 2. 定款・規則等の制定・改正

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| (1) 選奨規則の改正            | (2017. 4. 22)  |
| (2) 論文賞選定規則の改正         | (2017. 4. 22)  |
| (3) 基本財産への繰入に関する規則の制定  | (2017. 5. 29)  |
| (4) 委員会の出席交通費に関する内規の改正 | (2017. 6. 19)  |
| (5) 寄付金規則の改正           | (2017. 10. 23) |
| (6) 終身会員の推薦に関する規則の改正   | (2017. 12. 22) |
| (7) 名誉代議員の就任に関する規則の制定  | (2018. 2. 23)  |
| (8) 代議員選出規則の改正         | (2018. 2. 23)  |
| (9) 事務局保全積立金規則の制定      | (2018. 2. 23)  |

## 3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌  
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

73 巻 4 号～74 巻 3 号 (2017 年 4 月～2018 年 3 月)

巻 号	73 巻										74 巻			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	54	72	50	74	102	62	54	68	54	62	53	68	773	
主 な 論	巻頭言		2							2			4	
	音叉	2			2		2						6	
	顕彰紹介	1											1	
	追悼文		2					3		2			7	

文・ 記 事  主 な 論 文 記 事	論文	9 (1)	22 (2)	12 (11)	11 (1)	8 (1)	8 (1)	13 (1)	12 (1)	10 (1)	6 (1)	9 (1)	10 (1)	130 (23)
	研究速報	9 (2)	4 (1)	8 (2)	6 (2)	3 (1)	4 (1)			3 (1)	3 (1)	2 (1)	4 (1)	46 (13)
	解説 (小特集を含む)	27 (3)	35 (6)	21 (3)	48 (7)	34 (4)	40 (6)	32 (6)	45 (7)	32 (4)	39 (7)	23 (3)	44 (7)	420 (63)
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)					11 (1)	2 (1)				2 (1)	8 (2)		23 (5)
	連載企画	2		2				2						6
	特別講演					7						4		11
	研究発表会報告					1						1		2
	選奨記事・紹介記事					13								13
	研究会発表論文一覧					20								20
	書評							1				1		2
	コーヒーブレイク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	73巻総目次									4				4
	AST目次		2		1		1		1		1		2	8
	AST abstract		2		2		1		1		2		3	11
	学会記事等	1	2	2	1	2	3	1	3	2	2	2	2	23
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	会告	11	29	29	16	17	63	27	29	17	11	55	15	319
	広告	11	10	8	11	8	11	11	11	9	9	8	10	117
	発行部数	4600	4600	4600	4600	4600	4550	4550	4550	4550	4550	4550	4550	54850
	小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6	

注 1) 欄中の ( ) 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 高齢者や視覚障害者に配慮した音環境

2 音波と気泡

3 再考・デジタル信号処理

4 交通騒音：音源側と受音側の両視点から

5 音響に関する国際規格審議の動向

6 障害者を支える音声技術

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2017年5月、7月、9月、11月、2018年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムに移行した。

Vol. 38 No. 3~Vol. 39 No. 2 (2017年5月~2018年3月)

Vol.		Vol. 38				Vol. 39		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		62	61	41	55	53	123	395
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword						1	1
	Paper	41 (5)	37 (4)	24 (3)	35 (4)	36 (4)	82 (9)	255 (29)
	Technical Report							
	Acoustical Letter	10 (3)	10 (3)	13 (4)	12 (3)	14 (4)	37 (11)	96 (28)
	Invited Review	7 (1)	10 (2)					17 (3)
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
	和文誌論文等内容梗概	2	2	2	1	1	1	9
Vol. 37 総目次					5			5
特集号タイトル							※1	

注) 欄中の ( ) 内数値は編数。

※1 Special Issue on speech communication

- (3) 科学技術振興機構 (JST) が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。

#### 4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2017年3月15日、16日、17日の3日間、明治大学生田キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1,336名であった。

申込件数は583件、このうち、スペシャルセッションは8テーマ、「音響学の基礎3(音響信号処理)」、「環境振動の計測・評価から制御に関する最近の研究動向」、「水中音響技術の最近の動向」、「計測と音楽音響」、「音のデザイン戦略ーマーケティングとブランディングー」、「世界初の軟骨伝導機器としての「軟骨伝導補聴器」の完成と世界への普及」、「人間による音声コミュニケーションー音声生成と音声知覚を中心にー」、「音環境とバリアフリーー障害者差別解消法について学ぶー」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。なお、賛助会員と学生との交流の場として利用いただくことを目的とした交流会を開催し、7社が参加した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、5社が展示を行った。

- (2) 秋季研究発表会は、2017年9月25日、26日、27日の3日間、愛媛大学城北キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、997名であった。

申込件数は596件、このうち、スペシャルセッションは10テーマ、「計測と音楽音響」、「音声翻訳技術とそのひろがり」、「騒音に関する情報公開と地域共生ー交通騒音からNIMBY(Not In My Back Yard)問題までー」、「超音波デバイス用の圧電材料」、「第1言語(L1)と第2言語(L2)に関わる音声科学」、「うごく!音のデザイン」、「スポーツ分野における音響技術の新展開」、「補聴支援技術の現状と今後」、「災害等非常時屋外拡声システム性能確保のためのASJ技術規準第1版と今後」、「小中学生からできる音響工作」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、2社が展示を行った。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	70	58
	音声 B	72	53
	音声 B/聴覚・音声/音声コミュニケーション/音響教育		34
	聴覚/聴覚・音声	28	11
	電気音響	83	81
	電気音響/聴覚(共催)	34	49
	音楽音響	19	27
	騒音・振動	34	39
	建築音響	39	58
	超音波/水中音響	78	55
	アコースティックイメージング	10	15
	音響教育	5	6
	音支援(音バリアフリー)	5	5
	熱音響技術	10	7
	音のデザイン	27	8
	スペシャルセッション(春季8テーマ)	69	-
スペシャルセッション(秋季10テーマ)	-	75	

ASJ-ASK ジョイントセッション	-	15
計	583	596

特別講演	演 題	日本陸軍の秘密戦と登戸研究所 - 明大生田キャンパスの秘められた歴史 -	聴く俳句 - 俳句は音でできている -
	講 師	明治大学教授 山田 朗 氏	俳人 佐藤 文香 氏

#### (4) 技術動向レビューの実施

2017年春季は、2017年3月15日に「コミュニケーションを支える技術-音バリアフリーと人工知能-」をテーマとして実施した。2017年秋季は、2017年9月25日に「空中超音波の発生と測定的基础とその応用」をテーマとして実施した。

#### (5) 研究発表会ポータルサイト

広報・電子化委員会（小澤 賢司委員長）で、研究発表会ポータルサイト作成した。ポータルサイトでは、プログラムのほか、アクセス時刻における各会場での進行状況、各講演の要旨、会場への交通案内等を表示した。

### 5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	黒澤 実	10	124	電気音響、アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	戸井 武司	10	58	アコースティックイメージング研究会との合同開催分の含む
電 気 音 響	島内 末廣	7	204	超音波、音声、聴覚、建築音響研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む
音 声	山下 洋一	7	177	電気音響、聴覚研究会、音声コミュニケーション調査研究委員会との合同開催の分を含む
聴 覚	平原 達也	8	152	電気音響、音声、建築音響研究会、音響教育委員会、音声コミュニケーション調査研究委員会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	尾本 章	10	62	電気音響、聴覚研究会、音響教育委員会、音声コミュニケーション調査研究委員会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	水谷 孝一	8	68	
アコースティック イメージング	山口 匡	5	43	超音波、騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音響教育委員会	西村 明	2	33	電気音響、聴覚、建築音響研究会との合同開催の分を含む
合 計		67	921	

(2) 騒音・振動、聴覚、建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

### 6. 国際交流

#### (1) 国際会議の開催・準備等

2017年秋季研究発表会において、韓国音響学会と共催して ASJ-ASK ジョイントセッションを実施した。なお、発表件数は15件であった。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA)、国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に

協力した。

- (3) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。
- (4) インドネシア振動音響学会(AAVI)の設立国際会議に武田副会長が参加し、協力した。
- (5) 当学会が国内審議団体となっている ISO/TC43 国際会議を 2018 年 11 月 12 日～16 日の間、島根県松江市での開催を予定し、ISO/TC43 松江総会準備委員会(鈴木陽一委員長)を組織し諸準備を行った。

## 7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 当学会が作成した JIS A 1418-2, JIS Z 8731 について、それぞれ改正原案作成委員会(橘秀樹委員長)を設置し審議を行った。
- (3) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2, 同/SC3 及び IEC/TC29 関係)の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会(鈴木 陽一委員長[ISO/TC43・TC43/SC1], 佐藤 洋委員長[ISO/TC43/SC2], 堀内 竜三委員長[IEC/TC29])において審議し、結果をとりまとめて報告した。

## 8. 調査研究委員会の活動

- (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究  
 (株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本 慎一委員長)が作業を実施した。
- (2) 音バリアフリーに関する調査研究  
 音バリアフリー調査研究委員会(中村 健太郎委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。
- (3) 熱音響技術に関する調査研究  
 熱音響技術調査研究委員会(渡辺 好章委員長)において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。
- (4) 音のデザインに関する調査研究  
 音のデザイン調査研究委員会(岩宮 眞一郎委員長)において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。
- (5) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する調査研究  
 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会(鈴木 陽一委員長)において、防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。
- (6) 軟骨伝導に関する調査研究  
 軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井 裕司委員長)において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (7) 生物音響に関する調査研究  
 生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会(力丸 裕委員長)において、調査研究を行った。
- (8) 音声コミュニケーションに関する調査研究  
 音声コミュニケーション技術に関連のある研究分野の研究者が活発に議論できる環境の提供を目的とする音声コミュニケーション調査研究委員会(荒井 隆行委員長)において、調査研究を行った。

(9) 高臨場感オーディオに関する調査研究

高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会（安藤 彰男委員長）を設置し、調査研究を行った。

(10) スポーツ音響に関する調査研究

音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（大鶴 徹委員長）を設置し、調査研究を行った。

## 9. 学術委員会関連委員会の活動

(1) 音響教育に関する調査研究

音響教育委員会（西村 明委員長）において音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行った。なお、8月12日、13日に国立科学博物館「夏休みサイエンススクエア」に出展したほか、9月9日に「音の科学教室」を開催した。

## 10. 公益目的支出計画の実施完了について

当学会は、公益法人制度改革により平成24年度4月に一般社団法人に移行し登記を行った。爾来、移行法人として、公益目的支出計画を実施してきたが、平成29年度で移行期間が終了し、平成29年8月31日付で内閣府公益認定等委員会より平成29年3月31日に公益目的支出計画の実施完了を確認した旨の文書を受領した。

## 11. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第41回功績賞受賞者は、加来 治郎、金田 豊、牧野 正三の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 日本音響学会論文賞

従来、佐藤論文賞として選定しておりました論文賞の名称を「日本音響学会論文賞」と改称した。日本音響学会誌掲載の和文論文から選定された論文を「日本音響学会論文賞佐藤賞」、Acoustical Science and Technology誌掲載の英文論文から選定された論文を「日本音響学会論文賞古井賞」と称することとした。なお、表彰の回数は引き継ぎ今年が第58回である。

2018年春季研究発表会選奨会場(2018年3月14日)で本賞を贈呈した。

### 第58回日本音響学会論文賞受賞論文（敬称略）

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

- 「非同期マイクロホンアレーにおける伝達関数ゲイン基底非負値行列因子分解を用いた遠方音源抑圧」日本音響学会誌73巻9号(2017)

村瀬 慶和、小野 順貴（首都大学東京）、宮部 滋樹、山田 武志、牧野 昭二（筑波大学）

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

- 「Numerical examination of niche effect on sound transmission loss of glass panes」AST誌38巻6号(2017)

佐久間 哲哉、井上 尚久（東京大学）、清家 剛（三菱電機(株)）

(3) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2018年春季研究発表会選奨会場(2018年3月14日)で本賞を贈呈した。

### 第13回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者（敬称略）

- 北村 大地（東京大学）

研究名：「低ランク時間周波数モデリングに基づくブラインド及び教師あり音源分離」

- 矢田部 浩平（早稲田大学）

研究名：「光学的音響計測のための信号処理」

(4) 粟屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2017年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2017年秋季研究発表会選奨会場(2017年9月26日)及び2018年春季研究発表会選奨会場(2018年3月14日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第42回粟屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2017年春季研究発表会, 2名)

- 石川 憲治(早稲田大学)  
「光による音場イメージング計測法の楽器計測への応用」
- 小谷野 雄史(早稲田大学)  
「無限次元SVDを用いたマイクロホンアレイの空間サンプリング特性の解析」

第43回粟屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2017年秋季研究発表会, 5名)

- 浅見 拓哉(日本大学)  
「円板付中空型ステップホーンを用いた小型空中超音波音源の基礎検討」
- 井島 勇祐(NTTメディアインテリジェンス研究所)  
「DNN音声合成のためのProsody Aware Word-level Encoderの評価」
- 伊藤 信貴(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)  
「混合複素角度中心ガウス分布を用いた方向統計量モデルに基づくブラインド音源分離」
- 高橋 義典(東京都立産業技術高等専門学校)  
「楽器製作とグラフィカルプログラミングで学べる小中学生向け音響学イベント」
- 森 翔平(東京工業大学)  
「臨床応用を考慮した超音波肝画像中の成分数判定によるマルチレイヤーモデルに基づく肝線維定量画像の高精度推定」

(5) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2017年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2017年秋季研究発表会選奨会場(2017年9月26日)及び2018年春季研究発表会選奨会場(2018年3月14日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第15回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2017年春季研究発表会, 21名)

朝倉 大智(三重大学), 市川 裕詞(名古屋工業大学), 稲垣 拳(同志社大学), 稲部 葉月(和歌山大学), 遠藤 宣明(東京大学), 大谷 健登(名古屋大学), Thuan Van Ngo(北陸先端科学技術大学院大学), 新村 洋一(新潟大学), 関 博史(豊橋技術科学大学), Richeng Duan(京都大学), 外山 翔平(東京大学), 西 史人(東京工業大学), 野崎 琴代(早稲田大学), 橋本 実結(日本大学), 原 萌子(秋田県立大学), 三上 栞(大阪大学), 水野 愛(室蘭工業大学), 矢嶋 雅貴(中央大学), 山下 悠介(同志社大学), 若林 佑幸(立命館大学), 和田 颯次(室蘭工業大学)

第16回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2017年秋季研究発表会, 21名)

稲熊 寛文(京都大学), 澤田 直輝(山梨大学), 増田 嵩志(東京大学), 宮崎 晃一(名古屋大学), 吉村 建慶(名古屋工業大学), 朱 治(北陸先端科学技術大学院大学), 山田 裕貴(宇都宮大学), 有吉 輝(立命館大学), 佐藤 航也(電気通信大学), 瀧田 雄太(東京大学), 藤森 朗穂(九州大学), 茂木 宏太(東京電機大学), 升山 義紀(早稲田大学), 竹内 大起(早稲田大学), 上西 宏治(神戸大学), 河原 宏幸(防衛大学), 塙 大祐(東京工業大学), 山川 愉生(早稲田大学), 田村 和輝(千葉大学), 鈴木 真里(日本大学), ユン ジヒョン(上智大学/忠南大学)

(6) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛

助会員所属の個人，グループに贈られるもので，公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお，賞の贈呈は通常総会の際に行う。

#### 第26回技術開発賞受賞者（敬称略）

- ジャパンプローブ(株)  
「超音波探触子「探」シリーズ 柔探・曲探・蝸探」  
小倉 幸夫，平野 大輔，岩田 典明，馬場 比路志，酒井 玲，吉田 光良，星野 秀和，李文（ジャパンプローブ(株)）
- 大成建設(株)／(株)栗本鐵工所  
「粒状体を用いた固体伝搬音低減技術」  
田中ひかり，富高 隆，増田潔（大成建設(株)），鹿倉潤二（(株)栗本鐵工所）
- 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所  
「クラウド型音声認識システム「Watson」によるリアルタイム・コールセンターエージェント支援システム」  
倉田 岳人，長野 徹，立花 隆輝，福田 隆，伊藤 伸泰，鈴木 雅之（日本アイ・ビー・エム(株)）
- 日本放送協会  
「三次元音響ラウドネスの客観的測定法の標準化とラウドネスメーターの開発」  
大出 訓史，入江 健介，小森 智康，小野 一穂，佐々木 陽，長谷川 知美，澤谷 郁子，中山 靖茂（日本放送協会）

#### (7) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので，今年度は次の9名を選定した。なお，2018年春季研究発表会選奨会場（2018年3月14日）で本賞を贈呈した。

##### 第5回学会活動貢献賞受賞者（敬称略）

- 饗庭 絵里子（電気通信大学）[聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 安藤 珠希（生田流箏曲）[音楽音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 川上 央（日本大学）[音のデザイン調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 小林 正明（戸田建設(株)）[建築音響研究委員会の副委員長，幹事としての貢献に対して]
- 下倉 良太（島根大学）[軟骨伝導調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 長谷川 英之（富山大学）[超音波研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 平栗 靖浩（徳山工業高等専門学校）[騒音・振動研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 平田 慎之介（東京工業大学）[アコースティックイメージング研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 堀内 俊治（(株)KDDI総合研究所）[電気音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]

## 1.2. 講習会，講演会及びセミナーの開催

### (1) 講習会（敬称略）

事業委員会（苮木 禎史委員長）が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

#### ア．「デジタル信号処理の基礎と最近のトピックス」（第153回技術講習会）

期 日；2017年7月3日～4日 会場；早稲田大学西早稲田キャンパス  
講 師；及川靖広（早稲田大学）  
受講者数；28名

#### イ．「音響技術のアプリ化とスマートフォンやタブレット端末への実装」（第154回技術講習会）

期 日；2017年7月20日～21日 会場；全国家電会館  
講 師；坂本真一（(株)オトデザイナーズ），古晒貴光（(株)アプサ）  
田中 勉（(株)アローズネクスト）



受講者数；22名

ウ。「系列データモデリングの基礎と最近のトピックス」(第155回技術講習会)

期 日；2017年6月15日～16日 会場；早稲田大学西早稲田キャンパス

講 師；戸田智基(名古屋大学), ニュービック グラム(カーネギーメロン大学)

受講者数；56名

エ。「3次元音響の基礎と応用」(第156回技術講習会)

期 日；2017年10月17日 会場；全国家電会館

講 師；飯田一博(千葉工業大学)

受講者数；12名

オ。「空中超音波センサの基礎と応用」(第157回技術講習会)

期 日；2017年11月15日～16日 会場；全国家電会館

講 師；浅田隆昭(村田製作所), 鎌倉友男(電気通信大学), 蜂屋弘之(東京工業大学)

受講者数；15名

カ。「音響・振動におけるFDTD法の基礎と応用」(第158回技術講習会)

期 日；2017年10月19日～20日 会場；東京大学生産技術研究所

講 師；坂本慎一(東京大学), 佐藤雅弘(富山大学), 土屋健伸(神奈川大学),  
朝倉巧(東京理科大学)

受講者数；19名

キ。「Praatによる音声分析・音声加工・知覚実験の実施法」(第159回技術講習会)

期 日；2017年11月9日～10日 会場；全国家電会館

講 師；北原真冬(上智大学), 田嶋圭一(法政大学), 田中邦佳(法政大学)

受講者数；12名

## (2) サマーセミナー(敬称略)

ア。「音響学の基礎と最近のトピックス」(第18回サマーセミナー)

期 日；2017年9月10日～12日 会場；長野県白馬・シエラリゾート白馬

講 師；安藤彰男(富山大学), 伊藤洋一(日本大学), 及川靖広(早稲田大学),  
大川茂樹(千葉工業大学), 北村大地(東京大学), 上村卓也(NTTコミュニケーション科学基礎研究所), 坂本慎一(東京大学), 長谷川英之(富山大学),  
羽田陽一(電気通信大学), 藤平晴奈(NTTコミュニケーション科学基礎研究所),  
矢田部浩平(早稲田大学)

受講者数；52名

## (3) ビギナーズセミナー

活性化・若手育成委員会(大川茂樹委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2017年春季研究発表会では「最高峰の国際会議に採択されるための極意」をテーマとして、2017年秋季研究発表会では「音響学と機械学習・ディープラーニング」をテーマとして実施した。

## 1.3. 出版事業

(1) 出版委員会に属する3つのシリーズ編集委員会, 音響テクノロジーシリーズ編集委員会(坂本慎一委員長), 音響入門シリーズ編集委員会(羽田陽一委員長), 音響サイエンスシリーズ編集委員会(平原達也委員長)において, それぞれ企画内容について審議し, 出版した。なお, 平成29年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・頭部伝達関数の基礎と3次元音響システムへの応用(音響テクノロジーシリーズ19)(2017/04/13発行)
- ・新版 アクティブノイズコントロール(音響テクノロジーシリーズ9)(2017/10/06発行)
- ・音響情報ハイディング技術(音響テクノロジーシリーズ20)(2018/03/30発行)

イ. 音響サイエンスシリーズ

- ・低周波音 –低い音の知られざる世界– (音響サイエンスシリーズ 16) (2017/11/02 発行)
- ・聞くと話すの脳科学 (音響サイエンスシリーズ 17) (2017/11/06 発行)

(2) 音響学講座編集委員会 (安藤彰男委員長) において、それぞれの巻について、担当委員を決めて編集作業を進めた。

(3) 音響用語辞典編集委員会 (伊藤彰則委員長) において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

#### 14. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会 (小澤 賢司委員長, 荒木 章子副委員長) において、Web, メーリングリスト, Facebook 及び研究発表会会場における広報活動等, 各種会員サービスを行った。

#### 15. 学会活性化, 若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会 (大川 茂樹委員長) において、サマーセミナーの実施 (サマーセミナー実行委員会), ビギナーズセミナーの開催, 学生フォーラムの活動の活性化を図る活動を行った。

#### 16. 財務に関する活動

(1) 財務委員会 (中村健太郎委員長, 坂本修一(会勢拡大担当), 廣江正明(産業連携担当), 渡邊祐子(広告担当)) において、賛助会員, 広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し, 財務の安定にむけた活動を行った。

(2) 賛助会員入会のメリットを整理・追加を行い, 入会の勧誘を行った。また, 研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため, 賛助会員にポスター展示の希望を募り, 実施した。

(3) 2017 年春季研究発表会において, 当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会を実施した。

#### 17. 寄付制度と学会活動活性化

平成 29 年度会費の請求に併せて名誉会員, 終身会員, 正会員にご寄付を募った。なお, 拠出いただいた寄付金は, 学会活性化積立資産として積み立て, 学会活性化に関する事業に支出した。平成 29 年度は, 活動特別支援金申請書を作成し, 4 件について学会活性化積立資産を活用した。

#### 18. 通常総会の開催

第 51 回通常総会は, 2017 年 5 月 29 日, 全国家電会館において開催した。なお, 出席者は, 118 名 (うち議決権行使書の提出による出席 73 名) であった。

#### 19. 理事会, 役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

平成 29 年度理事会は, 2017 年 8 月を除いて毎月開催したほか理事の交替期の 5 月には 2 回開催し計 12 回開催した。

(2) 役員会

平成 29 年度役員会は, 2017 年 8 月を除く毎月, 計 11 回開催した。

(3) 企画委員会

平成 29 年度企画委員会 (羽田 陽一委員長) は, 2017 年 8 月及び 2018 年 3 月を除く毎月, 計 10 回開催した。

- (4) 編集委員会  
平成29年度編集委員会（鶴木 祐史委員長）は、2017年5月、6月、7月、9月、11月、2018年1月及び3月の計7回開催した。
- (5) 学術委員会  
平成29年度学術委員会（伊藤 彰則委員長）は、2017年6月、9月、12月、2018年3月の4回開催した。
- (6) 財務委員会  
平成29年度財務委員会（中村 健太郎委員長）は2017年7月に開催した。
- (7) 研究発表会準備委員会  
平成29年度研究発表会準備委員会（荒井 隆行委員長）は、2017年6月、9月、12月、2018年3月の4回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、12月の2回開催した。
- (8) 広報・電子化委員会  
平成29年度広報・電子化委員会（小澤 賢司委員長）は、2017年9月、2018年3月の2回開催した。
- (9) 事業委員会  
平成29年度事業委員会（苮木 禎史委員長）は、2017年9月、10月、12月の3回開催した。
- (10) 出版委員会  
平成29年度出版委員会（坂本 慎一委員長）は、2017年9月に開催した。

## 20. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(一社)電子情報通信学会
協 賛	39 件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後 援	3 件	(一社)日本オーディオ協会ほか
計	44 件	

## 21. 支部所属会員

### (1) 関西支部

会員種別	平成29年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数(A)	2018. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	6	5	△1	6	△1
終身会員	24	23	△1	23	0
正 会 員	468	458	△10	466	△8
学生会員	168	175	7	169	6
(合計)	666	661	△5	664	△3

### (2) 東北支部

会員種別	平成29年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数(A)	2018. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	14	14	0	13	1
正 会 員	137	134	△3	138	△4
学生会員	78	84	6	79	5
(合計)	232	235	3	233	2

## (3) 東海支部

会員種別	平成 29 年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数(A)	2018. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	16	15	△1	15	0
正 会 員	277	273	△4	277	△4
学生会員	79	66	△13	79	△13
(合計)	373	355	△18	372	△17

## (4) 九州支部

会員種別	平成 29 年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数(A)	2018. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	8	7	△1	7	0
正 会 員	169	158	△11	168	△10
学生会員	64	58	△6	64	△6
(合計)	241	223	△18	239	△16

## (5) 北陸支部

会員種別	平成 29 年度			参 考	
	2017. 4. 1 現在数(A)	2018. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2017. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	0	0	0	0	0
正 会 員	75	72	△3	74	△2
学生会員	60	64	4	60	4
(合計)	135	136	1	134	2

## 2 2. 支部の事業

## (1) 関 西 支 部

## ア. 支部役員会

支部役員会は、2017年4月、6月、11月、12月、2018年2月の5回開催。

## イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	29. 4. 18	ロームシアター京都 サウスホール	出席者 147 名(うち委任状 124 通) / 定足数 99 名
講演会・見学会	29. 4. 18	ロームシアター京都 サウスホール	ロームシアター京都の概要説明と施設や設備、機材などの見学 参加者 31 名
音楽音響研究会	29. 7. 29	龍谷大学深草キャンパス	発表 4 件 参加者 13 名
建築音響研究会	29. 10. 6	関西大学千里山キャンパス	発表 5 件 参加者 18 名
見学会	29. 10. 20	サントリーワールドリサーチセンター	研究開発拠点であるワールドリサーチセンターの見学 参加者 12 名
騒音・振動研究会	29. 11. 28	積水ハウス総合住宅研究所	発表 5 件 参加者 15 名

第20回若手研究者 交流研究発表会	29. 12. 16	同志社大学同志社ロ ーム記念館	講演会, デモ&ポスターセッション, 懇親会 デモ発表9件, ポスター発表29件, 企業展示3件 参加者 152名
電気音響研究会	30. 1. 23 ～ 24	関西大学	発表 34件 参加者 23日 73名 24日 52名
超音波研究会	30. 1. 23 ～ 24	関西大学	発表 34件 参加者 23日 73名 24日 52名

## (2) 東 北 支 部

### ア. 支部役員会

支部役員会は東北大学電気通信研究所において、2018年2月に開催。

### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	29. 4. 19	東北大学工学部	
第1215回学術講演会	29. 4. 19	東北大学工学部	「不思議, 強力超音波の世界」 講師 足立 和成 氏(山形大学) 来聴者 150名
音声研究会	29. 7. 27 ～ 28	秋保リゾートホテルク レセント	
聴覚/電気音響研究会	29. 8. 9 ～ 10	東北大学電気通信研究 所	
電気関係学会東北支部 連合大会	29. 8. 24 ～ 25	弘前大学文京町キャン パス	発表件数 240件, セッション数 41, 参加者 560名 (のべ) 広告掲載企業 37社, カタログ展示 企業 12社, 賛助企業 7社 特別講演「いま, なぜ太宰文学か ーその魅力に迫るー」 講師: 齋藤 三千政 氏(弘前医療福 祉大学教授) 来聴者 101名
超音波研究会	29. 10. 5	東北大学青葉山キャン パス	
東北大学電気通信研究 所一般公開 2017(後援)	29. 10. 7 ～ 8	東北大学電気通信研究 所	来所者 2137名
音楽音響研究会	29. 11. 11	八戸工業大学	
平成30年東北地区若手 研究者研究発表会(共 催)	30. 2. 24	東北学院大学多賀城キ ャンパス	「音・光・電波・エネルギー・シ ステムとその応用」 講演件数 116件

### ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会及び同若手研究者研究発表会における若手研究者を対象として、所定の手続きにより審査を行った。その結果、電気関係学会東北支部連合大会から2名、若手研究者研究発表会から2名の受賞者を決定した。

## (3) 東 海 支 部

### ア. 支部役員会

支部役員会は、2017年3月、2018年1月に開催。

### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会・講演会	29. 3. 13	ホテルルブラ王山	出席者 19名

			講演 1 件
騒音・振動研究会(後援)	29. 5. 12	名城大学天白キャンパス	講演件数 6 件
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	29. 9. 7 ～ 8	名古屋大学	参加者 約 700 名 シンポジウム 1 件(合同企画) 一般講演 448 件 音響学会関連発表 13 件
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	29. 9. 21	岐阜大学	参加者 119 名 講演件数 46 件
支部見学会	29. 10. 30	神山鉱山	参加者 12 名
技術講習会	29. 11. 16	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	参加者 31 名
建築音響, 騒音・振動関連若手研究発表会	29. 12. 8	三重大学工学部	参加者 15 名 講演 6 件
2017 年度学生表彰式	30. 3. 2	ホテルルブラ王山	参加者 50 名 講演件数 9 件

#### ウ. 学生奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会, 電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 12 名, 優秀発表賞 6 名であった。

#### (4) 九 州 支 部

##### ア. 支部役員会

支部役員会は, 2018 年 3 月に開催。

##### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
電気・情報関係学会九州支部連合大会	29. 9. 27 ～ 28	琉球大学千原キャンパス	共催 講演件数 478 件, うち音響関係 11 件
音声研究会	29. 10. 19 ～ 20	九州工業大学	共催
学生のための研究発表会	29. 12. 16	九州大学大橋キャンパス	主催 発表件数 30 件(口頭発表 19 件, ポスター発表 11 件) 参加者 64 名
聴覚研究会	30. 3. 3 ～ 4	那覇市 IT 創造館	共催 VR 心理学研究委員会, ヒューマン情報処理研究会
音声/電気音響研究会	30. 3. 19 ～ 20	石垣島南の美ら花ホテルミヤヒラ	共催
音楽音響研究会	30. 3. 25	九州大学大橋キャンパス	共催
支部総会	30. 3. 31	九州大学	出席者 52 名(うち委任状提出者 25)

##### ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。表彰式は平成 30 年 3 月 31 日の支部総会席上, 今年度の受賞者は 5 名であった。

##### エ. 九州支部学会活動貢献賞

九州支部の活動の活性化に多大な貢献が認められる者を対象として贈呈する賞で, 今年度の受賞者は 1 名であった。

#### (5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2017年4月、7月、9月、12月、2018年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	29. 4. 8	金沢大学サテライト・プラザ	出席者 36 名 (うち委任状提出者 18 名)
電気関係学会北陸支部連合大会	29. 9. 11	富山大学五福キャンパス	音波・音響関係部門 講演 10 件 (うち招待講演 1 件) 学生優秀論文発表賞 9 件
聴覚／電気音響研究会	29. 10. 21 ～ 22	牛岳温泉リゾート	講演 16 件
シンポジウム保育と音環境	29. 12. 17	しいのき迎賓館 (金沢市)	講演 3 件, ワークショップ 1 件 出席者 45 名
平成 29 年度日本音響学会北陸支部優秀学生賞の贈呈	30. 3. 1	—	受賞者 9 名
北陸地区学生による研究発表会	30. 3. 3	金沢工業高等専門学校	音波・音響部門発表 7 件
研究会 防災放送と非難行動	30. 13. 9	しいのき迎賓館 (金沢市)	講演 5 件, 出席者 35 名 騒音・振動研究会と共催

ウ. 表彰

・平成 30 年 3 月 1 日, 平成 29 年度優秀学生賞を 9 名に贈呈した。

## 事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。